

2013-11

全国拡大教材製作協議会

代表世話人 佐藤 邦隆

第 4 5 号

会 報

〒108-0073

港区三田 3-7-26-405

Tel・Fax 03-3453-3052

<http://www.kakudai.org/>

活動の中間報告

副代表世話人 猪狩 美知子

来春の代表者会議に向けて、世話人会としてこの1年半の活動について検証を進めています。24年の横浜での「つどい」のテーマは“拡大写本の原点にもどる”でした。新組織となった世話人会としてもそれを引き継ぐ形で活動を始めました。

I, HPの有効活用。今まであったHPを見直し新たなHPを作製しました。そして目的を3つとしました。①拡大教科書の啓蒙。②拡大教科書を必要としている児童・生徒及び関係機関に対する情報提供。③会員への情報提供と情報の共有。

現在、小学校は23年度から中学校は24年度から全国のボランティアグループが製作した拡大教科書をHP上で検索できるようになっています。世話人会の報告もHPに載せています。リンク先も多岐にわたりさらに情報を入手しやすく充実させていきたいと思ひます。

II, 会員の研修。標準拡大教科書が作製されこれからのボランティア活動を考える時、著作権の問題を避けて通ることはできないと考へ、1月に勉強会を開きました。講師をお願いした笹本雄司郎氏との出会いによってその後の活動が大きく広がっていくこととなりました。(勉強会の内容については以前詳しくご報告いたしました。)そして、笹本氏の快諾によって6月に同じ内容の勉強会を関西でも開くことができました。

視覚障がい者の団体、その方たちを支えるさまざまなボランティア団体と行動をともにすることも増えました。著作権についての解釈は当事者・ボランティア・文化庁とそれぞれの立場で微妙な違いがあるようです。特に拡大写本団体として、政令によって著作権の許諾から解放される権利を得ることは容易ではなさそうです。これからも多方面から情報を得て勉強していかなければいけないと思ひます。

児童書の製作者・出版社との懇談会に参加し、弱視の子供たちにとっても成長の過程で自分で読める本があることの大切さ、拡大書籍の必要性を訴え理解していただけたと思ひます。協議会に登録しているボランティア団体が児童書の拡大本製作をしやすくする為、著作権の許諾申請を簡便にできるような書式等について検討をしていきたいと思ひています。

先日11月29日には慶應義塾大学中野泰志先生を講師に2回目の勉強会「弱視を学ぶ～弱視児童の読書状況について」を開きました。

III, 27年度小学校教科書の全面改定に当たり標準拡大教科書の製作協力の依頼を受け、協議会から独立した専門チームを立ち上げました。教科書協会の専門チームとの交渉に当たる窓口として、また出版社との共同製作を希望する団体のまとめ役としての役割を担ってもらうこととなります。

11月29日午前に代表者懇談会を開き、活動の中間報告とこれからの協議会のあり方についてのご意見を伺いました。遠方からの方もいらっしゃいましたが22グループの代表の方にご参加をいただきました。限られた時間の中で十分な議論を尽くすことはできませんでしたが、さまざまな貴重なご意見をいただきました。世話人会としてそれらのご意見を検討し26年度の活動方針に生かしていきたいと思ひます。弱視児童・生徒の学習環境や読書環境を整えるために拡大写本ボランティアとして何ができるのか、協議会として何をすれば良いのかを考えていきたいと思ひています。皆さまのお力添えをよろしくお願ひいたします。

ボランティアはいつも弱視の子供に見やすい、使いやすい教科書をつくってあげようと思いプライベートサービスを旨としてきましたが、この数年、それができにくくなってきました。

出版社の作る標準拡大本は、ボランティアの求めているものと少し違うかなという思いがあります（本当にこんな教科書で勉強できるのだろうか）。

7月に慶應義塾大学三田キャンパスでシンポジウムが開かれました。その中で教科書協会から教科書出版社とボランティアが共同で拡大教科書を作れないだろうかとの提案があり、それと同時に清水書院の中学公民をコラボで作った経験談の話がありました。

私の所属する四街道拡大写本の会は、平成23年にコラボで中学生の教科書を作成したことがあるので大変興味のある話でした。本来はボランティアのやることではないと思いましたが、拡大教科書は誰のために作るのか、「弱視の子供のためでしょう」。ボランティアの蓄積したノウハウを生かして出版社と共同で作ると理解しました。これは今までと違った拡大写本の会の「大切なテーマ」だと思います。

全国拡大教材製作協議会（拡大協）に登録されているグループにアンケートを実施した結果、賛成反対が拮抗したとのことでした。

そこで拡大協とは別に専門チームを立ち上げ、教科書出版社とボランティアが共同製作の作業がスムーズにできるよう参加させていただきました。

専門チームの立場 ボランティアグループと出版社との仲立ちをする
基本的な事項をとりまとめボランティアが動きやすくする
出版社と対等な立場で話を進める

今までの経験を生かし、6人でチームを立ち上げ、どんなことをすれば成功するのだろうか、打合せによって細かな仕様を取り決めることとしました。

出版社3社の要望を受け、賛成16グループの皆様と一緒によりよい拡大教科書を作ろうと思っています。是非ご理解をいただきますようお願いいたします。

世話人会より

*コラボに関する経緯は懇談会資料をあわせてご覧ください。

なお、興味のあるグループの方はメールまたはホームページ書き込みなどでお問い合わせください。専門チームへつなぎます。



神奈川で勉強会を開きました

神奈川県拡大写本連絡協議会

去る11月30日に神奈川県ライトセンターにて、協議会の18のグループより参加者を募り、「レイアウト」をテーマとした勉強会を実施しました。

お題は小学生の社会の教科書。見開き2ページを手書きは10ミリ、パソコンは30ポイントという文字サイズだけを指定し、文字間、行間、使用ペン、用紙サイズは自由としました。各グループなり個人なりが作成した写本を見せ合うことで、様々な方法を学びました。

当日は59名の参加者があり、5～6名のグループ（手書きとパソコン混成）に分かれての検討を1時間ほど行った後、グループごとのディスカッション内容を発表しました。

サンプルとして、多いグループは7種類も出し合ったりできました。大まかな点では同じようでありながらも細かな点で全く同じものではなく、文字・図・写真等の選択順、ページの記載方法、図の拡大、絵などの補強線、字の後ろの色かけなど、グループとしても個人としてもそれぞれに発見があったようです。

事前の拡大写本用意など大変な部分もありましたが、実り多い勉強会となりました。



代表者懇談会 開催

11月29日10時より東京都障害者福祉会館C3会議室にて22グループの代表が集まり懇談会が開かれました。お昼を食べながらざくばらんに話をされ地域を越えての交流を持てたようでした。

今後も機会があればこのような場を企画したいと思いますのでその時にはふるってご参加ください。

代表者懇談会 まとめ

日時 平成25年11月29日 10～12時
場所 東京都障害者福祉会館
参加グループ 22グループ

教科書協会との共同作業

教科書協会との現況を専門チーム越島氏より説明後、討議に入った。営利を目的とする教科書会社とボランティアの関係について主に話しが進んだ。その中で拡大本を作るのが経営的に苦しい会社の教科書についてははじめからボランティアに依頼がくるように制度を変えるよう協議会として働きかけていってはどうかとの意見が出た。

教科書以外の写本

児童書を長く写本している「あじさい」の代表より話を聴いた後、それぞれのグループの現状を発表、情報交換を行った。著作権が問題となったが児童書に関しては出版社等の理解が深まり書式を整えて申請すれば比較的楽に許諾が得られやすい。また、著作権法37条の「著作権法施行令」「政令で定める団体」（主に図書館等）から写本依頼を受けているグループからは、グループ申請には活動計画・報告、予算計画、会計報告を行う総会資料、会則、名簿が必要との具体的なアドバイスがあった。このことは次に話し合われた費用調達の時にも必要ということであった。また写本を収める先が「著作権法施行令」の視覚障害者等のための複製等が認められる者に該当しているかの確認も必要なのではとの意見も出た。

問題集、特別支援学校・養護学校の教材、高齢者向け一般図書などを写本しているグループからの経験も聴くことが出来た。

活動費用調達

各グループから援助金・助成金を受けている話が披露され、ご苦労と努力が感じられた。

その他困っていること

- 次世代の育成が難しく会が高齢化している。
- 著作権を申請するにも会則、総会などの条件をクリアできていない。
- 教科書依頼が減って他を探したい。またその為に率先して動く人材がいない。

「拡大写本の今後をさぐる」

第2回勉強会 弱視を学ぶ～弱視児童の読書状況について を開催しました。

11月29日（金）13時より慶應義塾大学中野泰志先生をお招きして弱視児童の現状を学ぶ勉強会を開催しました。

当日は会員28グループより71名参加、教科書出版社より22名参加、来賓として富士ゼロックス様より1名、笹本様がお見えになり約100名の受講となりました。中野先生のエネルギーギッシュな話に会場は引き込まれ、あっという間の2時間でした。参加者アンケートの結果を下記に載せましたがおおむね内容に満足いただけただようです。今後も勉強会企画は続けていきたいと思っております。要望のある方はホームページやメールなどへお願いします。

第2回勉強会アンケート集計結果から

回収枚数 62枚 回収率 来賓及び世話人を除く対象83名として74.7%

1. 「拡大写本の今後をさぐる」第2回 弱視を学ぶ～弱視児童の読書状況について

○企画内容についてどう感じられましたか

良い 62名 必要ない 0名 その他 0名

○講師について

良い 62名 良くない 0名 どちらともいえない 0名

理由 1、テンポが良くユーモアも交えた内容は経験に基づいたもので熱意が感じられ
わかりやすくとても良い勉強になった

2、資料が良く出来ていて、知る機会のない事や現状が聞けた

○講演時間について

ちょうどよい 40名 長い 18名 短い 3名 無回答 1名

2. 今後の勉強会について

○開催の内容や講師に希望があればお書きください

中野先生の第2回を 6名 勉強会を続けてほしい 3名

出版社の作成現状を聞きたい 2名 文科省の責任ある方の(専門家)話 2名

児童書への取り組みについて 1名 現場の先生の話 1名

白黒反転の技術について 1名 ユニバーサルデザインについて 1名

色覚特性について 1名

○開催場所について希望があればお書きください

エリア別に開催を 2名 首都圏ならどこでも 1名 駅近で開催 3名

3. 世話人会への要望がございましたらお書きください

盲学校（教師・生徒）の方々との交流・意見交換の場をつかって 2名

講座をDVDにして希望を募ってほしい

出版社とのコラボの経過を広報してほしい

学校や教育委員会など公の場に働きかけをしてほしい

出版社とボランティアのつながりの窓口をしてほしい

各グループとの交流の場を企画してほしい

その他のコメント

中野先生への謝辞 多数

資料が全部欲しかった

パワーポイントの下の方が良く見えなかった 質疑応答の時間が無く残念 2名

毎年児童書や副読本作りますと声掛けしても学校からは返答がないのは必要ないとの判断なのかわからない

もう少しゆっくりとした長めの時間設定で（→早すぎて消化不良という意見もあり）

* 世話人会よりお知らせ *

- 11月29日の懇談会および勉強会に参加されなかったグループの方へ
この会報とともに配布資料を送付しました。
同封されていない場合はお知らせください。
- 第2回勉強会のDVDを貸し出します。
興味があるグループの方はメールか手紙にて連絡ください。
DVD準備が整い次第順次お貸します。
- 平成26年度代表者会議について
次年度5月に会議を開催します。前回の会報でお尋ねしましたが開催場所の希望は出ておらず、東京障害者福社会館での開催を準備します。なお、「拡大写本のつどい」も代表者会議と同時開催の予定ですが内容について希望があれば連絡をお願いします。
- 世話人募集
代表者会議の開催時には世話人の改選が行われます。
興味のある方、自薦他薦を問いませんのでメールか手紙にて連絡をください。
(申し出の〆切 3月末日)

現在のグループ数 60グループ (平成25年11月現在)

退会 福岡グループあい (25年11月)
福岡ひなげしの会 (25年 8月)

25年度世話人会日程

- 原則として隔月第4週水曜日 午後1時半から
(どなたでもお気軽にご参加ください)
- 場所 東京都障害者福社会館
東京都港区芝5-18-2
- 交通 JR 田町駅 下車 徒歩3分
都営地下鉄三田線 浅草線
三田駅下車 すぐ

1月22日(水) 3月26日(水)

《編集後記》

師走に入りました！今回は勉強会の報告も兼ねていつもより1か月繰り下げての発行となりました。

しかし、1年の過ぎ去ることの速さが年々加速する気がします。そろそろ多くのグループが次年度教科書作成に入られたころと思いますがノロウィルスやインフルエンザのニュースも聞かれはじめ、寒さ厳しき折、大掃除や新年の支度など忙しい季節ですのでどうぞ皆様お体ご自愛くださいますように。(H)